Weekly report

株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都港区麻布台一丁目3-1

為替週間展望＝ドル円は引き続きレンジ相場が継続か

［１１月９日からの１週間の展望］

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

週間高低（カッコ内は日）　　11 月 2 日～ 11 月 6 日

	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比
ドル・円	157.49	158.77(3)	157.26(6)	157.80	+0.24
ユーロ・ドル	1.1160	1.1273(4)	1.1152(2)	1.1174	+0.0014

＝＝

国内株・金利／米国株・金利

	終 値	前週末比		終 値	前週末比
日経平均株価	57,434.77	-5855.34	日本10年債利回り	2.653	-0.128
ダウ平均株価	51,523.06	-247.25	米10年債利回り	4.835	-0.094

＝＝

＜来週の主要経済統計等＞

９日　中国１０月消費者物価指数、中国１０月生産者物価指数
　　日本９月景気動向指数速報値
　　独９月貿易収支
１０日　日本９月勤労者世帯家計調査、日本９月経常収支
　　日銀金融政策決定会合における主な意見（１０月２９・３０日分）
　　中国１０月貿易収支
　　米１０月消費者物価指数
１１日　独１０月消費者物価指数確報値
１２日　英第３四半期ＧＤＰ速報値
　　英９月鉱工業生産指数、英９月製造業生産指数、英９月貿易収支
　　米新規失業保険申請件数
　　米１０月中古住宅販売件数
１３日　浅田日銀審議委員講演
　　スイス１０月生産者輸入価格
　　ユーロ圏第３四半期ＧＤＰ改定値、ユーロ圏９月貿易収支
　　カナダ９月製造業出荷、カナダ９月卸売売上高
　　米１０月生産者物価指数

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

【前回のレビュー】ドル円は１５７～１５８円台を中心とする推移が続いている。原油高によるインフレ圧力は根強く、ドルを下支えする要因となる。人工知能（ＡＩ）インフラに対する過剰投資への警戒感がことあるごとに再燃して、米ハイテク株安・ドル安につながる可能性がある。こうした中、ドル円はレンジ相場が継続するとした。

【米中間選挙では野党民主党が圧勝】

２日以降のドル円は米中間選挙の結果などから大きく振幅したものの、１５７～１５８円台のレンジ内での推移にとどまった。

２日は米中間選挙の投票を控える中、ドル円は様子見ムードが広がった。ＮＹ原油が７ドル以上も急落したことでドル売りに押される場面も見られたが、この動きは限定的となった。１５８円接近では上値は重く、１５７円台後半を中心とする動きとなった。

３日のドル円は１５８円台後半まで上昇した。９月米雇用動態調査（ＪＯＬＴＳ）の求人件数が予想を大きく上回り、前回値も上方修正されたことで、週末の米雇用統計への期待とともに米国の１２月利上げ観測が強まった。

４日には米中間選挙で民主党の勝利し、上下両院で多数派となった。これを受けて、ドル円は一時１５７．４０台までドル売り円買いが進んだ。米中間選挙で野党である民

主党が圧勝したことに対して、トランプ米大統領が融和姿勢を示したことで政治的不透明感が後退して、１５８円台を回復した。

５日は日経平均が大幅安となったことなどもあり、ドル円は１５７．８０台までドル売り円買いが進んだ。売りが一巡すると、ＮＹ市場では１５８円台半ばまで戻りを見せた。しかし、中間選挙での民主党の圧勝が人工知能（ＡＩ）データセンター建設に逆風になるとの見方から、ＮＹダウが１８３３ドル安、ナスダックが５．５２％安となり、リスク回避の円買いとなって１５７円台半ばまで下落した。６日の東京市場では１５７円台前半までドル売り円買いが進んだ。

【米消費者物価指数（ＣＰＩ）などに注目】

１１月９日～１３日の週に予定される日米の経済指標やイベントには、９日の日本９月景気動向指数速報値、１０日の日本９月勤労者世帯家計調査、日本９月経常収支、米１０月消費者物価指数（ＣＰＩ）、１２日の米新規失業保険申請件数、米１０月中古住宅販売件数、１３日の米１０月生産者物価指数（ＰＰＩ）などがある。

米中間選挙という大きなイベントを通過したものの、その余波への警戒感は根強い。こうした中、１０日の米１０月消費者物価指数（ＣＰＩ）をはじめ、１３日の米１０月生産者物価指数（ＰＰＩ）などの動向が注目される。

これらの事前予想は下記の通り。１０日の米１０月消費者物価指数は前月比＋０．３％で前回の＋０．６％から減速が見込まれる。コア前月比は＋０．２％となり、こちらも前回の＋０．３％から減速が見込まれる。ＮＹ原油期近は１０月に９０ドル近辺から１００ドル超まで上昇しており、原油高の影響は残るものの、伸びは鈍化する見通しとなっている。市場予想を下回るとドル売りに、上回るとドル買いに傾きやすくなるとみられる。

１３日の米１０月生産者物価指数は前月比＋０．４％となり、前回の＋１．３％から伸びが減速する見通し。コア前月比は＋０．３％と、前回の＋０．７％とこちらも伸びが鈍化する見通し。

ドル円は１５７～１５８円台での取引が続いている。１５７円に接近したところでは底堅く推移するものの、１５９円接近では介入警戒感などが上値を抑える要因となっている。人工知能（ＡＩ）関連株の下げが続くと、リスク回避の円買いから一段安となる可能性もある。ただ、ドル円が下げトレンドに転じるわけではなく、あくまでもレンジ内での推移にとどまりそうだ。こうした中、ドル円は引き続きレンジ相場が継続することとなりそうだ。目先の予想レンジは１５５．００～１５９．５０円。

【英中銀は０．２５％の利上げ】

１１月５日の英金融政策委員会（ＭＰＣ）では、市場予想通りに政策金利を３．７５％から４．００％に引き上げた。ベイリー英中銀総裁は、「国内のインフレ圧力は依然として高い」「足元の原油価格の下落はポジティブなニュース」などと述べた。また、「中東での紛争が解決しない限り、今回が最後の利上げになるとも考えにくい」とも発言した。今後の利上げの可能性に言及したものの、次回会合について明言することもなかった。

今後の利上げの可能性を示唆したものの、時期についてのヒントはなかった。原油価格の動向やそれに伴うインフレ率の動向次第とみられる。ポンドドルは１．３５ドル近辺まで上昇を見せており、今後も緩やかに上値を追う展開となりそうだ。目先の予想レンジは１．３３５０～１．３６５０ドル。

ユーロドルはポンドドルほどの力強さはないものの、ドルの軟調な動きを受けて緩やかに上昇基調で推移している。２１日移動平均線を上に抜けてきており、もみ合いながら上値を追う展開が見込まれる。目先の予想レンジは１．１１５０～１．１４００ドル。

今後の日米以外の経済指標やイベントとしては、９日の中国１０月消費者物価指数、中国１０月生産者物価指数、独９月貿易収支、１０日の中国１０月貿易収支、１１日の独１０月消費者物価指数確報値、１２日の英第３四半期ＧＤＰ速報値、英９月鉱工業生

産指数、英９月製造業生産指数、英９月貿易収支、１３日のスイス１０月生産者輸入価格、ユーロ圏第３四半期ＧＤＰ改定値、ユーロ圏９月貿易収支、カナダ９月製造業出荷、カナダ９月卸売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>
本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>
本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。